

# 情報基礎演習 I でのグループウェア利用による教育

経済学部 羽石寛志  
hhiro@cc.saga-u.ac.jp

## 概要

政府の e-japan 戦略 [1] をはじめとする情報社会への対応とし、中学校でも 2002 年度より技術・家庭科の「情報とコンピュータ」が必修となり、高等学校でも 2003 年度より「情報」が必修となり情報科目が授業に組み入れられることとなった。これらの情報教育を受けた学生が大学に入学するのは 2006 年度ということになる。

多くの大学文系学部で行われている情報リテラシー教育でのワープロ・表計算等のアプリケーションソフトの操作技術中心の教育は、2006 年度以降の入学者はすでに学習済みの学生が増加することが考えられる。そこで、経済学部での情報基礎演習 I における教育も高等学校等での情報教育を受講した学生に対応できる初期情報教育が必要になる。

そこで、学内 COE を利用し他大学やグループウェアソフトの開発会社の調査等を行った。結果、経済学部情報基礎演習 I の 2005 年度カリキュラムを従来型の情報リテラシー教育から、情報活用能力を向上させることを目指し情報共有・協働作業をグループウェア等のコミュニケーションツールを用いたカリキュラムに改定することとした。ここでは、カリキュラム改定を行うための調査および準備と狙いについて報告する。

## 1 はじめに

政府は 2001 年より e-japan 戦略 [1] として、あらゆる分野においても世界最先端の情報技術を用いた効率的な社会を構築しようとして計画し実施している。

文部科学省も「小・中・高校教育に関すること」の「情報化への対応」[2] において、“高度情報通信ネットワーク社会が進展していく中で、子どもたちが、コンピュータやインターネットを活用し、情報社会に主体的に対応できる「情報活用能力」を育成することは非常に重要である”としている。

また、“こうした情報活用能力の一層の充実を図るために、新しい教育課程では、①小・中・高と各学校段階を通じて、各教科等や「総合的な学習の時間」においてコンピュータやインターネットの積極的な活用を図る。②中・高等学校において、情報に関する教科・内容を必修とする”とし、“こうした、情報化に対応した教育を実現するため、IT 戦略本部が策定した「e-Japan 重点計画」等

に基づき、「2005 年度までに、すべての小中高等学校等が各学級の授業においてコンピュータを活用できる環境を整備する」ことを目標に、教育用コンピュータの整備やインターネットへの接続、教員研修の充実、教育用コンテンツの開発・普及、教育情報ナショナルセンター機能の充実などを推進していく”とも記している。

一方、現在大学の新生向けに多くの大学で開講している「情報リテラシー」のカリキュラムは、学部により様々であるが、多くの文系学部においては、パソコンの使用法、ワープロ・表計算などのアプリケーションソフトやインターネット・メール等の操作技術の教育が中心である。このような情報教育ではこれから社会的に求められる情報活用能力や情報発信能力とのミスマッチが生じる。また、操作技術自体も個別のアプリケーション操作にとどまらず、複数の機器を組み合わせ活用する能力が求められるなど、情報リテラシー教育の内容が社会の要請に届いていないのが現状である。さらに、情報リテラシー科目の内容自体、大学入学までに習得済みの学生の割合もす

に現在でも増えてきており、2006 年度以降はより増加することが考えられる。

そこで、新しい高等学校の学習指導要領により教育を受けた学生の入学する 2006 年度には、従来の大学における「情報リテラシー」カリキュラムでは対応できない可能性が出てくることが予測される。実際、今年度の経済学部で開講している情報リテラシーに相当する「情報基礎演習 I」の受講生を調査すると 50 名のクラスで全くパソコンをさわったことがないという学生は 1～2 名程度である。

そこで、高等学校の情報科目導入に対応し、現在の社会的要請に応えられる社会科学系学生向けの初期情報教育として、経済学部の 2005 年度情報基礎演習 I のカリキュラム改定を行う調査と準備および狙いを報告する。

## 2 経済学部情報基礎演習 I の現状

経済学部情報基礎演習 I の教育は、学籍番号により約 50 名の 6 クラスに分け、1 クラスに教官 1 名と TA 2～3 名により統一されたオリジナル教科書を用い演習を行っている。本演習の内容はアプリケーションソフトをはじめとするパソコンの操作技術が中心課題であり、演習の最後に総合学習としてアンケート調査を行うといったものである。

また、2004 年度より当初学部主催で現在は就職相談室主催で外部講師による Microsoft Office Specialist[3] (以下 MOS) 講習会を開講した。夏季には Word と Excel それぞれ約 50 名が受講し 20 名弱が受験しほぼ 100% が合格し、2005 年 2 月にはひとつ上級の Excel の講習会を開講予定としている。

この試みは、来年度からのカリキュラム改訂で Word や Excel 等のアプリケーションソフトの操作を演習時間中に重点を置くのではなく、学生自身による自習や学部在籍する助手による「ミニ講座」などで対応し、到達点の確認のひとつとして MOS 資格が良いのではということで試験的に導入した。

会場・日程・費用等問題はあるが、おおむね受

講者の評価は高く今後も活用が検討される。

## 3 他大学の情報教育調査

高等学校における情報教育科目の導入に対応すべく大学での情報リテラシー科目を他大学はどう考えているのか調査するため、関東 4 校、北海道 2 校、関西 4 校、九州 1 校の調査を行っている。調査より、以下のような回答を得た。

- すべての調査校で、情報機器・ネットワークの利用には何らかの講習を必要とする。
- 情報センターの一括カリキュラム校と学部の責任で開講するところがある。
- 情報センターの一括カリキュラムでは、学部の専門科目が設置される。
- アプリケーション教育が多いが、プレゼンテーション実習中心の大学がある。
- 文書作成、表計算の後継科目では、画像処理や Flash、プログラミングなどの科目が設置されている。

## 4 経済学部情報基礎演習 I のカリキュラム改定案

他大学の調査等により、従来型のアプリケーション教育は、“情報教育科目を受講した 2006 年度以降の学生には習得済みの学生が多いことが考えられニーズとマッチしない”、“社会的要請である情報活用能力の向上には従来型のアプリケーション教育では情報利用能力の向上を図っているもので限界がある”、“情報教育科目を受講した学生の習得済みの内容が多様化している”等の問題点が考えられる。

そこで、経済学部の情報教育を「情報基礎演習 I」と「ミニ講座」により実施することとした。

「情報基礎演習 I」はグループ学習中心で行い、グループウェア等の今までに利用経験の少ないツールを利用し情報活用能力の向上を図ることを考えている。「ミニ講座」は自由参加で一回読み切りの課外講座であり個人で習得できる内容を学習し情報利用能力の向上を図り学生のレベルを合わせようと考えている。



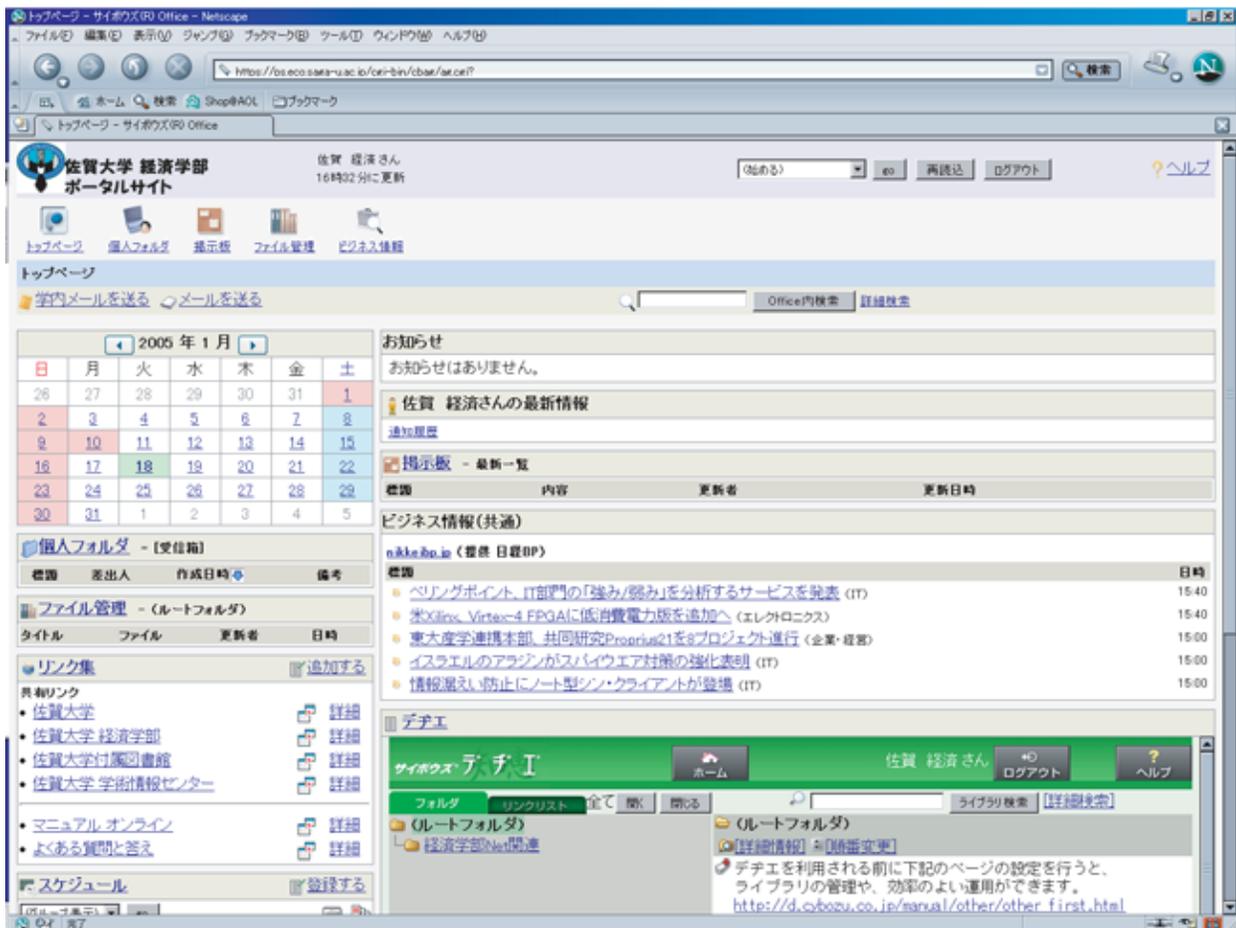


図2 佐賀大学経済学部サイボウズ Office6 トップページ

運営などでも実際に利用しており，また様々な IT 関連雑誌の評価や導入事例での評価の高いサイボウズ社のサイボウズ Office6[4] を導入することとした．図1参照．

サイボウズ Office6 は導入および設定が面倒でなく，一般的なグループウェア機能である掲示板・ファイル管理・スケジュール・メールなどが備わっており，ユーザもウェブ操作ができれば基本的な機能が使えるように開発されている．

導入にあたり，サイボウズ社の当時副社長（現社長）青野氏に大学での初期情報教育でのグループウェア利用を進めるためのインタビューを行った．

インタビューでは，実際に企業でどのように利用されているかや，開発時に想定していた利用以外での効果的な利用方法などの話を聞くことができた．そこでの話を参考にサイボウズ Office6 のアプリケーションの設定を行い電子会議室機能である学内メールの利用と，サイボウズデヂエ [5]

を利用し情報共有や情報収集作業を行う総合学習などを取り入れることとした．

## 5.1 サイボウズ Office6 の導入

サイボウズ Office6（無制限版 1,380,000 円）・サイボウズデヂエ（プラン 20 新規 100,000 円，継続年間 90,000 円）の導入は，CPU:PentiumII 400MHz，メモリ:384MB，HDD:160GB + 30GB の自作 PC に OS:Vine Linux3.1，Apache1.3.33 上にインストールし設定を行った．

設定は，ユーザ・グループの作成，不要アプリケーションの削除，トップページのデザイン，ユーザのファイル利用上限や権限の追加削除である．演習で利用するアプリケーションは，メール・掲示板・ファイル管理である．また，トップページは図2である．

## 6 今後の予定

サイボウズ Office6 の今後の利用は、無制限ユーザアクセスライセンスを導入したことで全学生および教員に利用が可能であるため、ゼミでのコミュニケーションや授業での双方向のコミュニケーションを行う予定である。これらの利用により学生および教員の情報共有が可能となり学生サービスの向上とともに教育効果の向上が想定できる。

課題としてサイボウズ Office6 は、LDAP によるユーザ管理に対応していないことで学術情報処理センターの ID とパスワードとの同期ができないことでの学生の混乱と管理の煩雑がある。また、全学生および教員の利用によるハードウェアのパフォーマンス不足などが考えられる。

## 7 おわりに

高等学校までの情報教育科目との対応を考えた時、大学では情報機器を道具と捉え使い方の教育ではなく、その道具をどう使えばいいのか使うことにより何ができるのかなどを中心とする教育が必要である。また、学生の到達点を社会的要請に添えて情報活用能力の向上を目指した教育を行うことを考えた。

そして、これまでに体験しなかったであろう、グループウェア上でコミュニケーションを取りながらの情報共有や協働作業を通じ情報活用能力の取得もねらったものである。

経済学部ではグループウェアソフトであるサイボウズ Office6 を導入し表 1 に示したカリキュラムを 2005 年度に実施し、学生のニーズや社会的要請などとの整合性を整理したうえで、2006 年度からの本格実施を目指す。

また、段階的に経済学部の全学生と教員への導入を行い、他の授業や演習などのコミュニケーションや情報共有を向上させ教育効果の向上につなげることを目指す。その中で情報技術を活用できる学生の育成のためにも情報基礎演習 I からの系統立てた情報教育実施の必要性がある。

なお、本報告は平成 16 年度情報処理教育研究

集会 [6] にて発表した報告を加筆修正したものである。

## 参考文献

- [1] 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT 戦略本部)  
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/>  
(2005/02/01)
- [2] 「小・中・高校教育に関すること—情報化への対応—」(文部科学省)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/main18\\_a2.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/main18_a2.htm) (2005/02/01)
- [3] マイクロソフト オフィス スペシャリスト公式サイト  
<http://officespecialist.odyssey-com.co.jp/welcome.html> (2005/02/01)
- [4] サイボウズ株式会社 サイボウズ Office6  
<http://office.cybozu.co.jp/cb6/index.html>  
(2005/02/01)
- [5] サイボウズ株式会社 サイボウズデジエ  
<http://d.cybozu.co.jp/index.html?file=/zci/index.cbml>  
(2005/02/01)
- [6] 羽石寛志, 安田伸一: “高等学校の情報科目に対応した初期情報教育についての検討”, 平成 16 年度情報教育研究集会, (2004)

表1 新情報基礎演習Iカリキュラム案

	タイトル	内容	ミニ講座
1.	ガイダンス 課題 注意	グループ分け発表, ログイン, システム説明, Windows の説明, タッチタイピング パスワードを考えてくる 仮 ID の発行	PC 入門 日本語入力
2.	パスワード変更 インターネット グループウェア 課題	検索, 印刷, 保存 グループウェアの操作, パスワード・メール設定 掲示板, 電子会議 (学内メール) 掲示板・学内メールによる課題提出	メール操作
3.	ファイル送受信 文書作成① ファイル送受信 課題	演習室のファイル・システム Word による文書作成 メールによるファイル送受信 グループウェアによるファイル管理 電子メールとファイル管理による課題提出	Word 基礎
4.	情報倫理① 課題	情報倫理の課題, 検索, 印刷, 保存 各班で以下のうち1つを調べる Power-Point にて7回目提出, 8回目発表 各班5分 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ユーザ名とパスワードの管理は、なぜ重要なのか。</li> <li>● 海賊版 (または、盗作) がいけないのはなぜか。</li> <li>● コンピュータ・ウィルスが困るのはなぜか。また対策は何か。</li> <li>● IT は遠距離恋愛をサポートするか。</li> <li>● 通話しないケータイ・サービスは、いまこれだけある。そして、これからこうなる。</li> <li>● ネットワーク・ゲームは、これからもっと進化する。</li> <li>● デジカメ、ケータイ、iPod。組み合わせて使うと、もっと便利。</li> <li>● ブロードバンドの新顔「電力線通信」を分かりやすく説明してみよう。</li> <li>● おサイフケータイはどのようにお財布なのか。</li> <li>● コンピュータ・ネットワーク犯罪から身を守るには。</li> <li>● あなたはデイトレーダーになりたいですか。</li> <li>● その他</li> </ul>	Web 基礎
5.	表計算 文書作成② 課題	基礎, 計算式, グラフ 表・グラフ・図の挿入 グラフ挿入した Word をメールおよび印刷提出	Excel 基礎
6.	プレゼンテーション 課題	基礎, アニメーション, 図の作成, 印刷 自己紹介の Power-Point を作成し3名程度に発表とその他はメール or グループウェア提出	Power-Point 基礎
7.	集計 注意	数値の集計, 非数値の集計 情報倫理課題提出	Excel 基礎
8.	情報倫理② 課題 注意	各班5分発表 アンケート原案を考えてくる 評価シートの作成	
9.	総合学習①	アンケート設計	
10.	総合学習②	アンケート入力・集計	
11.	総合学習③	プレゼンテーション1	
12.	総合学習④	プレゼンテーション2	
13.	総合学習⑤	プレゼンテーション3	
14.	予備日	プレゼンテーション4, 試験対策	
15.	期末試験	個別能力試験	